

学生の読書に関する調査 世論調査との比較

森 忠 繁、千 家 令 子、堂 田 いつみ

Survey on the Reading Habit of the students  
the Comparison with the '05 Public-opinion Survey

Tadashige MORI, Reiko SENGE, and Itsumi DOUTA

近畿福祉大学紀要 第7巻 第2号

(平成18年12月)

学生の読書に関する調査  
世論調査との比較

森 忠 繁、千 家 令 子、堂 田 いつみ

Survey on the Reading Habit of the students  
the Comparison with the '05 Public-opinion Survey

Tadashige MORI, Reiko SENGE, and Itsumi DOUTA

The reading habit of the students was surveyed and compared with the '05 public-opinion survey. The 39% of the surveyed students did not read any book for last one month. It showed students were far away from reading. There were total 87.9% among the remaining 61.0% who read a book. They had been satisfied with their reading and 67.9% of them had been influenced on their view of life by reading. The 10.7% of the surveyed students bought books by the internet and 27.6% hoped to buy books by the internet in the future. The students who made use of the university library were 22.5% for zero time, 20.7% for more than six times, and the most frequency was 31.2% for once or twice.

Keywords : reading habit, students, far away from reading.

読書調査、学生、読書離れ

## はじめに

読書は人類が獲得した文化であり、人は読書する生物である。読書により、我々は文字を読み、知識や情報を獲得して考え、感動を味わい、想像力、創造力、感性が豊かになり、表現することができる。情報化社会の中では、読むことはますます必要となり、若いうちに読書の習慣を身に付けることがたいせつである。文化庁の平成14年度および平成15年度「国語に関する世論調査」<sup>1) 2)</sup>によれば、読書の重要性や意義について、国民の間でも十分に認識されている。しかし、国民、特に若者の「読書離れ」が進行している<sup>3) 4) 5)</sup>ことが懸念されている。

本学学生の読書活動の現状を把握して、図書館運営の資料を得るために「学生の読書に関する調査」を実

施し、その結果を読売新聞社が2005年に行なった世論調査の結果<sup>6)</sup>と比較したので報告する。

## 調査方法

2006年7月3日～7日の講義に出席していた学生1,463名(在籍学生数 2,457名、出席率59.3%)を対象に、読売新聞社が2005年の読書週間に行なった世論調査<sup>6)</sup>(以下に世論調査と記す)と同じ質問項目に図書館に関する質問を2項目を追加して、無記名方式で学生の読書に関する調査(以下に学生調査と記す)を実施した。

世論調査は全国有権者3,000名を250地点、層化2段階無作為抽出し、2005年10月15、16日に個別訪問面接聴取法で実施された。有効回答数は1,796名(回収率59.9%)回答者の属性内訳は男46%、女54%;20歳代12%、

30歳代15%、40歳代17%、50歳代22%、60歳代19%、70歳以上15%；大都市（東京23区と政令指定都市）21%、中核都市（人口30万人以上の市）19%、中都市（人口10万人未満の市）21%、町村16%であった。

学生調査の回答者内訳は男66.1%、女33.9%；1年27.4%、2年26.4%、3年24.0%、4年22.2%；社会福祉学科38.0%、介護福祉学科22.9%、福祉産業学科12.4%；出身都道府県は東日本（官制番号1～23）5.5%、

近畿（官制番号24～27、29、30）25.4%、兵庫県42.0%、中国（官制番号31～35）17.0%、四国（官制番号36～39）8.4%、九州（官制番号40～47）1.7%であった。

SPSS-PC10版を用いて集計、統計計算を行なった。

### 調査結果および考察

表1に調査の質問項目毎に学生調査と世論調査の結果を示した。

表1 質問と回答（ ）の数字は、本調査及び2005年読書週間の読売新聞社世論調査の回答者総数。数字は%。

問1	あなたは、この1ヵ月間に、何冊ぐらい本を読みましたか。マンガ、コミック、週刊誌や月刊誌などの雑誌を除いてお答えください。	本調査の結果 (1463)	世論調査の結果 (1796)
1	1冊	20.8	16.7
2	2冊	14.9	13.5
3	3冊	9.4	8.9
4	4冊	4.7	2.4
5	5～9冊	5.1	3.9
6	10冊以上	5.7	2.5
7	読まなかった	39.0	51.9
	無回答	0.3	0.2

$\chi^2 = 75.2140$ , d.f. = 7,  $p < 0.001$

問2	【前問で「読んだ」と答えた人だけ】 あなたは、この1ヵ月間に読んだ本の内容について、満足していますか、満足していませんか。	本調査の結果 (886)	世論調査の結果 (857)
1	満足している	43.5	54.1
2	どちらかといえば満足している	44.4	35.2
3	どちらかといえば満足していない	9.1	7.2
4	満足していない	3.0	3.4

$\chi^2 = 21.3856$ , d.f. = 3,  $p < 0.001$

問3	【前問で「読まなかった」と答えた人だけ】 あなたが読まなかった理由を、次の中から、あれば、いくつでもあげて下さい。	本調査の結果 (572)	世論調査の結果 (932)
1	時間がなかったから	47.7	48.6
2	読みたい本がなかったから	41.4	20.4
3	本以外で知識や情報が得られるから	8.7	16.4
4	本を読まなくても困らないから	14.5	18.0
5	本を読むのが嫌いだから	13.6	8.3
6	本の値段が高いから	8.6	2.7
7	本にお金をかけたくないから	9.1	3.0
8	健康上の理由で読めないから	2.3	17.7
9	その他	5.6	2.9

学生の読書に関する調査 世論調査との比較

問4 あなたが使う本代は、1年前に比べて、増えましたか、減りましたか、それとも、変わりませんか。雑誌やマンガ、コミックを除いてお答えください。		本調査の結果 (1463)	世論調査の結果 (1796)
1	非常に増えた	5.4	1.4
2	少し増えた	20.7	8.6
3	変わらない	34.9	57.4
4	少し減った	12.2	12.6
5	非常に減った	9.5	8.8
6	以前から本を買わない。無回答	17.2	11.2
2 = 128.2577, d.f. = 5, p < 0.001			

問5 あなたは、書店の店頭においてある本の種類が多すぎて、本を選ぶのに困ったことがありますか、ありませんか。		本調査の結果 (1463)	世論調査の結果 (1796)
1	よくある	21.8	17.8
2	ときどきある	34.7	21.3
3	あまりない	27.6	25.6
4	全くない	15.7	32.1
	無回答	0.3	3.3
2 = 186.2838, d.f. = 4, p < 0.001			

問6 あなたは、世間で話題や評判になっている本を、買う方ですか、買わない方ですか。		本調査の結果 (1463)	世論調査の結果 (1796)
1	買う方	7.6	9.0
2	どちらかといえば買う方	29.0	14.2
3	どちらかといえば買わない方	36.0	24.4
4	買わない方	27.0	51.3
	無回答	0.5	1.1
2 = 244.3120, d.f. = 4, p < 0.001			

問7 あなたは、インターネットの通信販売を利用して、本を買ったことがありますか。雑誌やマンガ、コミックを除いて、次の中から、あてはまるものを、1つだけあげて下さい。		本調査の結果 (572)	世論調査の結果 (932)
1	買ったことがある	10.7	10.1
2	買ったことがないが、利用してみたい	27.6	18.9
3	買いたいとは思わない	61.4	67.3
	無回答	0.3	3.7
2 = 73.1617, d.f. = 3, p < 0.001			

問8 あなたは、必要な情報をインターネットで手に入れて、本や雑誌、マンガ、コミックを買わずに済ませることがありますか、ありませんか。		本調査の結果 (572)	世論調査の結果 (932)
1	よくある	16.9	17.1
2	ときどきある	25.6	17.2
3	あまりない	23.4	9.7
4	全くない	33.4	52.6
	無回答	0.8	3.3
2 = 214.8929, d.f. = 4, p < 0.001			

問9 あなたは、本を読んで、考え方や人生観に影響を受けたことがありますか、ありませんか。		本調査の結果 (572)	世論調査の結果 (932)
1	ある	69.7	63.2
2	ない	28.4	34.6
	無回答	1.9	2.2
2 = 214.8929, d.f. = 4, p < 0.001			

問10 あなたは、次にあげた分野の本のうちで、どれを一番読みたいと思いますか。2つまであげてください。		本調査の結果 (572)	世論調査の結果 (932)
1	現代小説	30.6	16.3
2	古典文学	2.1	3.0
3	歴史小説・時代小説	10.7	19.4
4	推理・SF・冒険小説・ライトノベル	32.5	16.4
5	ノンフィクション・伝記	15.7	10.2
6	随筆・エッセー	14.2	12.6
7	考古学・歴史	2.4	4.6
8	哲学・思想・宗教	2.9	4.8
9	政治・法律・国際政治	1.2	3.2
10	経済・ビジネス・国際経済	2.3	11.0
11	自然科学	1.9	4.6
12	健康・医療・福祉・年金	15.4	20.8
13	教育・育児	4.3	5.8
14	料理・食生活	11.1	13.4
15	旅行・レジャー・スポーツ	18.9	18.4
16	パソコン・情報技術(IT)	2.8	4.4
17	その他	8.2	1.0
	無回答	1.1	1.1

問11 あなたは、この3ヵ月間に、大学の図書館をどのくらい利用しましたか。		本調査の結果 (572)	
1	0回	22.5	
2	1～2回	31.2	
3	3～5回	24.9	
4	6～10回	10.7	
5	11回以上	10.0	
	無回答	0.8	

問12 あなたは、この3ヵ月間に、大学以外の図書館をどのくらい利用しましたか。		本調査の結果 (572)	
1	0回	74.4	
2	1～2回	14.6	
3	3～5回	6.7	
4	6～10回	2.2	
5	11回以上	1.2	
	無回答	0.9	

問13 読書に親しむ環境づくりを進めるために、文字・活字文化振興法という法律が、先ごろ、国会で成立しました。あなたは、この法律ができたことで、活字離れに歯止めがかかることを、期待していますか、期待していませんか。		本調査の結果 (572)	世論調査の結果 (932)
1	期待している	11.5	15.0
2	どちらかといえば期待している	21.2	20.9
3	どちらかといえば期待していない	11.5	23.0
4	期待していない	17.4	31.5
5	わからない、無回答	38.4	9.7
2 = 424.9753、d.f. = 4、p < 0.001			

1) 1ヶ月に読んだ本の冊数(問1)

この1ヶ月間に本を「読まなかった」学生は39.0%であった。学生が読んだ本の冊数は、「1冊」20.8%が最も多く、次いで「2冊」14.9%、「3冊」9.4%、「10冊以上」5.7%、「5～9冊」5.1%、「4冊」4.7%の順であった。学生調査の読書量と世論調査の結果を比較すると0.1%以下の危険率で有意差が認められた。世論調査では「読まなかった」(51.9%)が学生より多く、「10冊以上」(2.5%)が少なかった。これは世論調査対象者に社会人、高齢者が多く含まれ、学生の年齢層が少なかったためと考えられる。質問内容が少し違うが、2004年の桃山学院大学学生の調査<sup>7)</sup>の「ほとんど読まない」学生の29.9%と比較すると、学生調査の「読まなかっ

た」学生の39.0%は高い値を示していると考えられる。

「読まなかった」学生は1985年世論調査では10%であったのに対し、学生調査では約40%を示し、近年の学生の読書離れが著しく進行している。「4冊以上」読んだ学生は、1985年の世論調査の85%から、学生調査の15.5%と読書冊数の減少も著しい。

2) 読んだ本の内容についての満足度(問2)

この1ヶ月間に読んだ本の内容に「満足している」が学生調査では87.9%、世論調査では89.4%で有意の差は認められなかった。しかし、世論調査の20歳代の92%が「満足している」のに対し、本調査の学生は満足度が少し低い。

学生の中には自分の意志による読書ではなくて、レ

ポートなどによる他者から半ば強いられた読書が含まれているのではないかと推測される。

### 3) 本を読まなかった理由(複数回答)(問3)

本を読まなかった理由は学生調査と世論調査とでは上位3選択肢は同じで、それぞれ「時間がなかった」47.7%、48.6%、「読みたい本がなかった」41.4%、20.4%、「読まなくても困らない」14.5%、18.0%であった。

「読みたい本がなかった」が世論調査より学生調査に多いこと、学生に「本を読まなくても困らない」14.5%、「本を読むのが嫌い」13.6%もいることなどは、学生の読書離れの確実な証左と言えるだろう。また、学生調査に「本の値段が高い」8.6%、「本にお金をかけたくない」9.1%が世論調査より多いのは学生の懐具合から理解できることであるが、携帯電話やカラオケなどの娯楽に多くの費用と時間をかけていることを考えれば、矛盾している現象である。世論調査で「健康上の理由で読めない」が17.8%を示したのは60歳代以上で多くを占め、視力の衰えや高齢者特有の眼疾患のために読書ができなくなっていることがうかがえる。

### 4) 1年前に比べた本代の増減(問4)

1年前と比べた本代が「増えた」は学生調査で26.1%、世論調査で10.0%、「変わらない」はそれぞれ34.9%、57.4%、「減った」は21.7%、12.6%、「以前から買わない」17.2%、11.2%であった。1年前に比べて本代が「増えた」は学生調査が世論調査より多かったのは、教科書代も含んで回答しているのではないだろうか。学生調査に「以前から買わない」が17.2%いるのは、前問の「本を読まなくても困らない」、「本を読むのが嫌い」と回答した者と多くが重なっているものと考えられ、学生の読書離れが浸透していることを示唆していると考えられる。

### 5) 書店店頭での選書の困難(問5)

書店の店頭で、本を選ぶのに困ったことが「ある」・「ときどきある」は学生調査では56.5%で、世論調査の39.1%より非常に多かった。「あまりない」、「全くない」は学生調査が15.7%、世論調査が32.1%であった。書店の巨大化、新刊書籍数の増加などで、店頭における本の種類が多過ぎることによるものだろう。

### 6) 話題、評判の本の購入(問6)

世間で話題や評判になっている本を「買う」は学生調査が36.6%、世論調査が23.2%と学生調査が有意に多い。しかし、世論調査の20歳代の32%と比べれば差はない。「大学生の読書と生活」によると<sup>8)</sup>、読んだ本について語り合ったり、本を貸し借りする友人がいる学生は40%おり、話題や評判の本が必要なのだろう。

### 7) インターネットの通信販売の利用による本の購入

(問7)

インターネットの通信販売による本の購入について、「買ったことがある」は学生調査の10.7%に対し、世論調査10.1%、「買ったことがないが、利用してみたい」は学生調査27.6%、世論調査18.9%、「買いたいとは思わない」は学生調査61.4%、世論調査67.3%であった。学生調査の「買ったことがある」10.1%に比し、世論調査の20歳代は22%であるが、予備軍の「利用してみたい」は逆に学生調査が多くなっている。「買ったことがある」と「買ったことがないが、利用してみたい」を一緒にした割合は、両者の間に差が認められない。出版科学研究所の出版物の調査<sup>9) 10)</sup>によると、ネット通信販売の売上が増加し、若年層ほど増加が著しい。

### 8) インターネット情報のみで本を購入しない(問8)

必要な情報をネットで入手し、本や雑誌を買わずに済ませることが「ある」は世論調査では34.3%で若年層ほど多い傾向にある。学生調査での「ある」は34.3%と高率である。平成13年度「国語に関する世論調査」<sup>11)</sup>によると、生活に必要な情報をテレビから得ているが最も多く、次いで新聞87.1%、雑誌29.7%、ラジオ19.6%、インターネット12.6%、本や辞典10.9%となっている。これを年齢層別にみると、テレビは全年齢層で、新聞は中・高齢者で90%以上あるが、雑誌は10代、20代の47~59%を占め、インターネットは20代、30代に多く、25%を占めた。必要な情報をインターネットで入手し、本や雑誌を買わずに済ませるものが若年層ほど増える傾向にある。しかし、読書をしない理由のトップである「時間がない」はずいぶんにもかかわらず、インターネットを利用している人は読書冊数が多く、情報感度の高い人ほどよく本を読んでいるといえる<sup>9)</sup>。

### 9) 読書による人生観への影響(問9)

本を読んで、考え方や人生観に影響を受けたことが「ある」は学生調査が67.7%、世論調査が63.2%と60%以上に達している。平成14年度、平成15年度「国語に関する調査」<sup>1) 2)</sup>によれば、読書の重要性や意義について、国民の間でも十分認識されている。価値観が多様化し、個性を重視する中で、何冊読んだという「量」ではなく、何を読んだかという「質」が重視されていると考えられる。

### 10) 読書分野(複数回答)(問10)

読みたい本の分野は、学生調査では、第1位が「推理・SF・冒険小説・ライトノベル」の32.5%、第2位が「現代小説」30.6%、第3位が「旅行・レジャー・スポーツ」18.9%の順であった。世論調査では、第1位が「健康・医療・福祉・年金」20.8%、第2位が「歴史小説・時代小説」19.4%、第3位が「旅行・レジャー・

スポーツ」18.4%であった。世論調査の対象者のうち、高齢者が34%含まれて、彼等にとり健康・医療・福祉・年金などの社会保障制度は現実の切実な関心事であるのに対し、福祉を専攻している学生には、まだ切実な問題とはとらえていないことによるものだろうと考えられる。

11) 文字・活字文化振興法の効果 (問13)

文字・活字文化の振興を図るための「文字・活字文化振興法」について、「期待している」は学生調査では32.7%、世論調査では35.9%であった。「わからない・無回答」は学生調査が38.4%と世論調査の9.7%より多いのは、学生に政治、社会現象への関心が薄いことによるものと考えられる。

12) 大学図書館の利用 (問11)、大学図書館以外の利用 (問12)

学生の3ヶ月間の大学図書館の利用は、「0回」が22.5%で、「1～2回」が31.2%で最多であった。「6回以上」利用しているものは20.7%であった。他の図書館を利用するものはほとんどおらず、「0回」が74.4%を示した。

大学図書館の利用回数 (問11) と1ヶ月間に読んだ本の冊数 (問1) との関係を表2に示した。読書量0～1冊の者の図書館利用は、0～2回が60%前後を占め、読書量が5冊以上の者の図書館利用6回以上は33～39%を示した。読書量の少ない者の図書館利用は少なく、読書量の多い者の図書館利用回数が多い傾向にあった。しかし、読書量0～1冊の者で、図書館利用が6回以上のものが15%前後あり、これらのものは調べものや検索に勉強のために図書館を利用したと考えられる。また、読書量5冊以上の者で図書館利用の0

～2回のものが40%前後あり、図書館以外の本を読んでいることになる。従って、大学図書館の利用が少ないからと言って、図書館は不要とは言えない。長田弘「読書からはじまる」<sup>12)</sup>の中から引用しておこう。

「大学へ行って、大学の誇る図書館でその蔵書をどれだけ読むでしょうか。がんばって読んだとしても、一人100冊あたりも読むでしょうか。とすれば、大学が誇るすばらしくよい図書館とは、ほとんどだれも読まない本がたくさんある図書館のことです。実際に読むかもしれない100冊ぐらいしか本がない図書館は、図書館とよばれません。----(中略)----。だれも図書館のない大学には行きたいとは思わないでしょう。しかし、実際に入っても、図書館の本はほとんど読まないで卒業するでしょう。」

「本の大事なありようのもう一つは、じつは『読まない本』の大切さです。図書館が、一人一人にとっては、すべて読むことなど初めから不可能な条件のうえにたってつくられるように、『本の文化』を深くしてきたものは、読まない本をどれだけ持っているかということです。」

まとめ

国民の読書離れが定着化を示す傾向の中で、この1ヵ月間に本を「読まなかった」学生は39%を示し、学生の間でも読書離れが浸透していることが認められた。一方で、読書で「満足」した学生が87.9%もあり、人生観に影響を受けたことが「ある」学生は67.9%を占めた。IT時代にあって、インターネットによる本の購入は10.7%の学生であるが、「利用してみたい」学生は27.6%あり、インターネットによる本の購入は増え

表2 大学図書館の利用回数 (問11) と1ヶ月間に読んだ本の冊数 (問1)

問11 問1	0 回		1～2回		3～5回		6～10回		11回以上		計
0冊	172	30.3	190	33.5	126	22.2	36	6.3	43	7.6	567
1冊	61	20.3	118	39.2	68	22.6	31	10.3	23	7.6	301
2冊	31	14.3	62	28.6	71	32.7	33	15.2	20	9.2	217
3冊	18	13.1	39	28.5	44	32.1	21	15.3	15	10.9	137
4冊	18	26.1	12	17.4	17	24.6	10	14.5	12	17.4	69
5～9冊	13	17.3	14	18.7	19	25.3	11	14.7	18	24.0	75
10冊以上	15	17.9	22	26.2	19	22.6	14	16.7	14	16.7	84
計	328	22.6	457	31.5	364	25.1	156	10.8	145	10.0	1450

2 = 105.9410, d.f. = 24, p < 0.001 欠損値 13



る傾向にある。3ヶ月間に大学図書館を利用した学生は「0回」が22.5%、「6回以上」が20.7%で、最多は「1～2回」の31.2%であった。他の図書館を利用するものはほとんどいなかった。

## 文 献

- 1) 文化庁：平成14年度「国語に関する世論調査」報告書，独立行政法人国立印刷局，東京，2003
- 2) 文化庁：平成15年度「国語に関する世論調査」報告書，独立行政法人国立印刷局，東京，2004
- 3) 文化審議会：読書離れ進む 読書活動等小委員会の意見のまとめ，<http://www.gks.co.jp/y.2001/>
- 4) 毎日新聞社，全国学校図書館協議会：第49回読書調査(2003) <http://www.j-sla.or.jp/oshirase/kkka.html>
- 5) 全国SLA研究・調査部：第50回読書調査報告，'04子どもの読書と学校図書館の現状，学校図書館，649号，12-33，2004
- 6) 読売新聞社：読書週間本社世論調査 読売新聞 2005年10月28日
- 7) 戸田悦子：読書行動における集団とコミュニケーションの作用 - 中高生時代の友人関係から見る“読書コミュニティ” - ，2005年度桃山学院大学原田ゼミ報告書，2005
- 8) 大学生協連読書調査委員会編：大学生の読書生活，大学生生活協同組合連合会，1988
- 9) 読売新聞社：情報接触と読書の関係，読売ADリポート，6(10、11)，42-45，2004
- 10) 出版科学研究所：2003出版指標年報，全国出版協会，2003
- 11) 文化庁：平成13年度「国語に関する世論調査」報告書，財務省印刷局，2002
- 12) 長田弘：読書からはじまる，日本放送出版協会，東京，2006